

## 第2回広島県総合計画審議会の主な意見

### 1 注力が必要な施策や視点について

#### 【人づくりと教育】

- 広島県の今後の発展に最も重要となるのは、やはり「人」である。
- 次期計画においては、県の強みを尖らせていくというブランドの発想も必要であり、例えば、強みの一つである教育に資源を特化し、「教育県ひろしま」を強く打ち出せば、ファミリー層などが広島に集まる契機にもなるのではないか。
- 教育分野では、初等教育から高等教育まで学校体系が一本に貫かれた単線型ではなく、リカレント教育を含めた複線型の教育を進めることが重要であり、人生全体と「学び」をしっかりとつなげて考える必要がある。

#### 【多様性】

- 外国人材の受入れ拡大により、今後、外国人の増加が見込まれるため、地域に多様な人がいることを前提として将来像を描くべきである。
- ひきこもりや社会的孤立など、地域には多様な課題を抱えた人がいることを踏まえ、すべての県民が安心した生活を送ることができるよう、共生の社会づくりを進めていく必要がある。
- 多様性の受容は、広島が開かれた都市であるという、国内外から人々を呼び込むメッセージにもなる。

#### 【安全・安心な暮らし】

- 大規模な災害が、全国各地で頻発化・常態化しており、県民の安全・安心な暮らしを守るため、ハード（防災の観点を取り入れたまちづくり）とソフト（避難行動の促進）の両面からの対策が喫緊の課題である。

#### 【中山間地域】

- 中山間地域は人口減少と高齢化が加速しているが、都市にはない多面的な機能や魅力を有しており、特性を活かした持続可能な地域づくりを進めていく必要がある。
- 教育や医療など、これまで田舎だからと諦めていたこともデジタル技術を活用した Society5.0 社会の実現を通じて、都市部との格差解消が期待される。

### 2 施策の好循環について

- 各施策の重なりが重要な変化を生み出しており、縦割りとなっている部分をいかに融合させていくかが鍵である。